

聖書:ダニエル書3章19～30節

説教:第四の者の姿

はじめに

紀元前605年、南王国ユダの首都であったエルがサレムはペルシャ軍に包囲されてしまいます。そのとき、まだ少年であったダニエルと彼の友人たちであるハナンヤ、ミシャエル、アザルヤは、神を信じる信仰者だったのですが、ペルシャに強制的に連れて行かれ、王に仕えるようになったことから、二つの大きな事件に巻き込まれてしまいます。

最初の事件は、ネブカドネツアル王が見た夢から始まりました。夢の意味をだれも解き明かすことができないとわかると、王は怒って全員殺せと命じ、そこへ何も関係なかったダニエルが巻き込まれ、いのちの危険にさらされてしまったのです。幸いにして神がダニエルを助けてくださり、それによって王が見た夢の意味を説き明かすことができたので、ダニエルも学者たちもことなきをえて一件落着となりました。

二つ目の事件は、王が建てた金の像を礼拝せよとの命令を出したことがきっかけとなりました。ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤの三人（これはペルシャに連れて来られてからつけられた名です）が王の命令に従わなかったことから告発され、王の前に引き出された三人に対し、王は、もしここで金の像を拝むならば無罪とする、しかし、もし拝まなければ燃えさかる火の中に投げ込むと脅迫します。これに対し三人は、「私たちが仕える神は火の燃える炉の中から自分たちを救うことができる」と語った後に、18節でこう語ります。「しかし、たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拝むこともしません。」

これが先週までのあらすじです。ダニエルも三人の友人たちもいずれも信仰者です。その信仰者がなぜこのような試練に遭わなければならないのか。神のみこころはどこにあったのか。そのことを考えていきます。

## 1 ネブカドネツアル王

### 1) 怒りに満ちて投げ込む

王は、これを聞いて顔を真っ赤にして怒ります。なぜ怒るのか。このような場合、ふつうなら王は直接処理しません。部下に任せる。ところがここでは王は直々に三人にと話をし、妥協案まで示している。おそらく王は、この裁判を利用して自分

の権威を高めようとしたのでしょう。当初の筋書きはこうでした。おそらく三人が折れて、「私たちが間違っていました。これから金の像を拝みます」と言うだろう。そうしたら王は人々の見ている前で三人を許す。国民に対して寛大な心をもった王であることをアピールできる。そうなる予定だった。

ところが三人は王の脅迫にまったく動じない。王の説得をはっきり断ったわけですから、これでは王の面目が丸つぶれです。ただちに三人は縛り上げられて炉の中に投げ込まれてしまいます。

### 2) 第四の者の姿を見る

はらわたは煮えるほど怒っていた王ですから、三人のことなど思い出すのも不愉快のはずです。ところがどのようなわけか、王は幻の中で不思議なものを見てしまう。25節。「だが、私には、火の中を縄を解かれて歩いている四人の者が見える。しかも彼らは何の害も受けていない。第四の者の姿は神々の子のようなのだ。」

炉の中に投げ込んだのは三人だけです。ところが、王の目には四人の姿が見える。あの四人目はいったい誰なのか。三人は本当に無事なのか。もう、いても立ってもいられなくなる。すぐに火の燃える炉の口に走って行き、このように叫びます。26節。「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ、いと高き神のしもべたちよ、出て来なさい。」

第四の者の姿をした方については、また最後に触れたいと思います。

### 3) 「いと高きしもべたち」

王がこのとき叫んだことばのうちから二つのことに注目します。一つ目。「いと高き神のしもべたちよ。」こう呼びかけています。王はつい先ほどなんと saying していたか。15節後半。「もし拝まないなら、おまえたちは、即刻、火の燃える炉の中に投げ込まれる。どの神が、私の手からおまえたちを救い出せるだろうか。」

お前たちを火の中から助け出す神はおらず、ペルシャ王の権力に逆らえる者はだれもいない。そのような自信に満ちていました。ところがいまは、そんなことばを忘れたかのように、「彼らが仕えている神がこの三人を救い出した」と言っているのも同然なのです。

#### 4) 「出て来なさい」

二つ目。王は人々のいる前で「出て来なさい」と命令しました。先ほど王は妥協案まで示して三人の信仰を翻させようとして失敗し、大恥をかいたばかりです。「出て来なさい」と命令したのに三人が出て来なかったらどうなる。恥の上塗りです。それなのに「出て来なさい」と叫んだ。三人は必ず出て来ると確信があったからということになります。先ほどまで怒り狂っていた王とは大きな変わりようです。

## 2 なぜ

### 1) 信仰者が試練に巻き込まれる

話をさかのぼれば、どうして信仰者であったダニエルと三人の友人たちが補囚となってバビロンに連れて行かれたのか、ずっと引っかかかっていました。神に対して罪を犯したというのならわかります。でも罪を犯したのは南王国ユダの王たちだったのです。ダニエルたちは、他人の罪に巻き込まれた被害者です。運が悪いということでしょうか。

神は信仰者を守るはずだ。神を信じているのなら、こんなことが起こるはずはない。私たちはどこかでそう考えています。もちろん神が信じる者を守る。それは確かです。ではどうやって守るのか。ときには、私たちが期待する守り方とは異なる方法で守る。そう考えた方が良いかも知れません。

ダニエルを初めとする四人の信仰者はペルシャに連れて行かれた。それだけを見るなら、神の守りはなかったかのようにしか見えません。でも注意深く観察すると、実に不思議なことがたくさん起きていたことに気がつきます。

### 2) 王が信仰を告白する

信仰のなかったペルシャ王が不思議な夢を見たとき、ダニエルが外向いて、神が永遠の国を築くという意味の夢を王が見たのだと解き明かしました。なぜ王が神の国の夢を見たのでしょうか。そこにダニエルが大きな働きをしていく。これは偶然でしょうか。

今日の箇所もそうです。王は燃える火の中に第四の者の姿を見て、それは神々の子のようであったと証言する。炉の中からまったく傷もやけどもしていない三人が出てきたのを見た王はこう言います。28, 29節。「ほむべきかな、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、このしもべたちを救い出された。王の命令に背いて、自分たちのからだを差し出しても神に信頼し、

自分たちの神のほかはどんな神にも仕えず、また拝まないこの者たちを。それゆえ、私は命令する。諸民族、諸国民、諸言語の者のうち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神に対して不敬なことを口にする者はだれでも、八つ裂きにされ、その家はごみの山とされる。このように救い出すことのできる神は、ほかにないからだ。」

つい先ほどまで金の像を拝まなければ殺すぞと脅迫していた王が、主の御名をあがめています。もちろんこの後のことを読むと、王が完全に信じたわけではなかったようです。それでも、王の命令に背いた三人のことを、立派な信仰者たちであると王自身が褒めている。予想もしなかった驚くべきことが起きています。

## 3 神の計画

### 1) 異邦人を救う

ダニエルたちがどうしてこんな目に遭うのか、すべて説明できるわけではありません。でも、はっきり分かることがいくつかあります。異教の神々を信じ、金の像を造ってこれを拝めと言っていたペルシャ王が、ダニエルたちが信じていた天の神、主の御名をあがめました。もしダニエルたちがペルシャに連れて行かれなかったら、こうはならない。ダニエルたちは運が悪かった、ということではありません。神がご計画をもってすべてのことの中に働いておられ、そのご計画のために用いられていったのです。では、神のご計画とはなにか。王がこう語っていました。「諸民族、諸国民、諸言語の者。」世界のすべての人たちということです。すべての人を救おうとされている。このことを実現するために神はどのような機会を用いたか。南王国ユダが神に逆らって罪を犯し、それによってもたらされたペルシャとの戦争。その結果、ユダヤ人が外国に散らされ、伝道されていく。これが神のなさる方法だったのです。

### 2) いまはわからなくても

今私たちは、新型コロナウイルスの問題で予想もしていなかったことが次から次へと降りかかってきて、先が見えなくないところに置かれています。たとえ非常事態宣言が解除されても、すぐに元の生活に戻るわけではありません。不自由な生活はまだまだ続くでしょう。みな不安と緊張の連続で疲れてしまっています。お役所の給付金の申請受付で働いている方が、市民の方から怒鳴られて心が折れそうだという話しが新聞に載っていました。みな心がすさんできています。

こんなとき信仰者として何ができるのかと考えようとしても、そんな余裕はなくて、将来どうなるのかとどこかでイライラして不安になっている自分がいます。

### 3) 第四の者の姿

状況は全然違いますが、ダニエルたちだって不安だったのです。周りは異教の神々を刻んだ像ばかり。目で見ると自分たちは孤独でした。でもいま見てきたように、神はまるで地下にあるマグマのように生きて働いていたのです。王が幻の中に第四の者の姿を見て、心が突き動かされたとき、まるでマグマが地下から噴火するように、王は炉の口に走り寄り、そこで三人を見て信仰を告白していった。そのとき、神の働きがはっきりと目に見えるものとなりました。

それだけではありません。最後に、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴとともにおられた第四の方に目を留めたいと思います。この方はどこにいたでしょう。王が証言しています。燃える火の炉の中にいました。三人と一緒に苦しみをともにされ、三人を救い出すために炉の中にいた。では、その方はどうなったのでしょうか。炉の中から出て来たのは三人でした。四人目の方は出て来ません。三人を救い出すために、この方は炉の中に残りました。救い主イエスです。

苦しみの中にいるとき、この方もともにおられる。そして、私たちが救い出すためにご自身のいのちをお捨てになる。そのことを思い起こしていきます。